

安城更生病院 病床機能区分変更について

安城更生病院では令和3～4年度にかけて施設整備を行い、令和4年5月に増床し、現在は771床で運用している。施設整備により診療機能も大幅に向上しており、同時に病棟の診療科の配置を変更し、機能強化を図ったことから、病床機能を一部変更する。

【変更点】

7階は東西に54床の病棟を配置しており、これまでは外科を主とする西病棟のみを高度急性期病床としていた。施設整備以降、外科手術の術式はロボット支援下を含む鏡視下手術が大幅に増加しており、安城更生病院の手術がより高度な水準となっている。また今年度は手術支援ロボットを増設することから、鏡視下手術が更に増加する見込みである。この様に高度化する手術への対応及び関連する消化器内科との連携を目的として、7階東西病棟を消化器センターとして、外科と消化器内科を配置して同等の機能を有する病棟として再編成した。7階東西病棟の入院基本料は、共に急性期一般入院料1ではあるが、西病棟と同じ機能を有する東病棟も高度急性期病床に相当すると判断し、病床機能を変更する。

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
変更前	293床	478床	0床	0床	771床
変更後	347床	424床	0床	0床	771床
増減	+54床	▲54床	±0床	±0床	±0床

【参考】愛知県地域医療構想における当該構想区域の記載内容及び現状

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
2025年の必要病床数	585床	1,703床	1,770床	940床		4,998床
2022年の病床機能報告	387床	2,439床	858床	851床	129床	4,664床
差	198床 不足	736床 過剰	912床 不足	89床 不足	—	—

2022年の病床機能報告では、2025年の必要病床数と比べると、急性期機能の病床数が過剰で、高度急性期機能、回復期機能の病床が大きく不足していることから、安城更生病院における今回の病床機能変更は西三河南部西構想区域においても適当と考える。

【2025年の予定】

別途、刈谷豊田総合病院も病床機能変更を計画しており、当院の変更と合わせた2025年の予定を以下の通り示す。

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
2025年の必要病床数	585床	1,703床	1,770床	940床		4,998床
2025年の予定	563床	2,178床	851床	931床	—	4,523床
差	22床 不足	475床 過剰	919床 不足	9床 不足	—	475床 不足